

事業所における自己評価結果（公表）

公表:2025年4月1日

事業所名 児童発達支援センター ガゼルの森

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等スペースとの関係で適切であるか。	12	3	受け入れ人数の適正化により全体の人数が少なくなり、またプレイルームもできて良かったと思う。室内のスペースは十分にあると思われる。	今年度プレイルームを創設。今後も必要に応じて部屋の使用用途の見直しや利用定員の見直しを行う。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8	6	法定人数に対しての場所や職員数ではあると思うが、場合によってはギリギリでやっている。今年度ゆとりのあるは職員配置数ではあるが、補助の職員がもう少しいると良い。適切であると思うが職員が休んだ時の補填が不十分だと思う事がある。	3:8を目安に職員配置をしているが、フリー職員の配置が不十分である。お子さまの安全と職員の多様な働き方にも柔軟に対応できるよう採用活動に努めていく。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の「特性」に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか	9	3	部屋の中にトイレがあり、誘導しやすい。	タイムリーな情報伝達が不十分であるという意見もあるため、迅速な情報伝達ができるツールを検討するとともに、情報共有できる時間の確保に努める。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	14	1	毎日のそうじがいきとどいていて常に清けつを保っている。プレイルームなども定期的にそうじを行っている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか？	9	6	使いたい日、時間をクラスごと決めている。子どもが落ち着けるスペースがもう1部屋あると嬉しい。ままごと用の部屋や雨が降った時などに部屋の数が増えると良いと思うことがある。	限られた部屋数の中で工夫しながら、お子さまに応じた環境整備に努めている。一方で、思うように部屋が使用できない場合もあるため、クラス間で連携を図りながら、部屋を使用していく。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	13	2	職員同士で意識できていると思われる。	クラス会議や職員会議等を活用し、業務改善に取り組んでいく。
	7	保護者等向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	12	1	改善をするために評価表で意向を明確化していると思われる。	評価表等を回覧し、内容を把握し、個別支援計画等に反映している。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10	2	ヒヤリハット会議や安全衛生委員会等で意見を聴取する機会を設けている。	職員からの意見聴取には努めるも、まだまだ改善に至らない部分も多々ある。事業所/部門/法人の課題を整理し、業務改善に努めている。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	10	2		第三者評価を実施してから時間がたつため、再実施を検討している。

	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	15		内部研修においては、アドバイザーを講師として定期的に研修を実施し、また外部研修においても、必要に応じて参加している。	・より多くの職員が研修に参加できるよう時間や人の調整に努める。 ・法人内でも研修の機会を増やし、事例について話し合いができる機会を作れるように努める。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	12	3		2025.3にHPに掲載。その都度見直しを図り、サービスの質の向上に努める。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	15		職員間で話し合いを行い、一人ひとり5領域に基づいて丁寧なアセスメントを行っている。保護者のニーズについても面談で聞き取り個別支援計画を作成している。	どの職員もこどもに対してのアセスメントが適切にできるよう、研修や話し合いの時間を設け、内容の質をあげていく。こどもについて具体的根拠を持って個別支援計画の目標を立てられるようにしていく。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	15		児発管、職員間で話し合いを行い、こども一人ひとりの発達段階に合った個別支援計画を作成している。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	15		他クラスの支援計画等共有が難しい部分がある。クラスの職員同士で個別支援計画について共通認識を持ち、日々の療育の中で計画に沿った支援をしている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールた把握するために、標準化されたアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	15		日々のこどもの発達状況を行動観察から把握し、5領域に沿ってアセスメントしている。津守式乳幼児精神発達検査を用いてアセスメントを行っている。必要に応じて心理士による発達検査を行っている。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」の狙い及び支援内必要も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設置され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	15		本人支援においては5領域でアセスメントを行い支援計画に活かしている。アセスメントから具体的な支援目標を設定し、支援内容についてもこども一人ひとりに応じて具体的な方法を示している。家族支援や移行支援、地域支援においても、職員間で話し合いを行い支援計画を立てている。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	13	2	クラスリーダーを中心に活動プログラムを立てている。それぞれのクラスのこどもに合った活動プログラムを作成している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	14	1	話し合いの中で、子ども達の発達段階に合ったプログラムを作成している。繰り返し取り組むことが大切な場合は繰り返し行う活動もあるが、様々な経験ができるようにプログラムを工夫している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせで「児童発達支援計画」を作成し支援が行われているか。	14	1	活動内容や子どもの発達状況などに応じて、個別活動と集団活動を行っている。支援計画では、個別に取り組むことと集団で取り組むことを、一人ひとりの発達に合わせて取り組めるよう作成している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	15		日々職員間で活動内容の流れ、子どもの様子について話し合いをして同じ気持ちや方法で支援ができるように努めている。活動についても流れや役割分担の確認を細かくしている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	15		子どもが降園した後、その日の様子や支援の内容について話し合い振り返りを行っている。次に繋がるような話をして常に支援内容についての見直しも行っている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	15		ケース記録を丁寧に記入し、支援の方法について話し合いを行い、次の支援に繋げている。上手く行かなかった点や改善点などを話し合い、支援内容を模索しながら取り組んでいる。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	14	1	定期的にモニタリングを行っている。その都度アセスメントをとり津守式乳幼児精神発達検査についても見直しを行い、個別支援計画についても見直しを行っている。	

関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	14	1	児発管やクラス担任が参加し、子どもの様子や家庭の状況について共有している。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	9	3	医療に関わっている児に関しては、保護者を通してお互いに情報を共有している。必要に応じて研修に参加するようにしている。	さらなる連携強化を図るため、自立支援協議会等へ参加し、協議、検討していく。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8	5	同じ施設内の保育部との交流を行っている。行事を一緒に行う中で、一緒に練習に参加したり準備をしたりする機会を作っている。また、年長に関しては、一緒に行事を行うことも多く、お互いのことを知るために、クラスを行き来しての交流も行っている。	さらなる連携強化を図るため、自立支援協議会等へ参加し、協議、検討していく。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	15		小学校へ向けて、子ども一人ひとりの様子や支援内容などをまとめて引継ぎ書を作成し、小学校や特別支援学校へ出向いて、丁寧な引継ぎを行っている。	
		（28-30は、センターのみ回答）	9	2	藤枝市内の事業所で連絡会を開催している。情報共有やケース検討、目指す地域像の共有、検討をしている。	
	28	地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	12		内部研修においては、アドバイザーを講師として定期的に研修を実施し、また外部研修においても、必要に応じて参加している。	
	30	（自立支援）協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	7	4	自立支援協議会などの各部会に参加している。	
		（31は、事業所のみ回答）				
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか。	5	9	同施設内に保育所が併設されており、お子さまに応じて交流している。また、活動においても必要に応じて共同で実施している。	

保護者への説明責任等	33	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	14		送迎の際や連絡ノートで、園や家庭の様子について情報共有を行い、こども一人ひとりの発達の状況や課題について共通理解を図るようにしている。定期的な面談に加え、必要に応じて面談を行っている。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	7	保育参加は実施している。	ベアトレ等以前は実施していたが、感染症や人員不足等で実施できていない。改めてニーズ把握に努め、必要に応じて検討、実施していく。
	35	運営規定、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	13	1	入園前や進級の際など、必要に応じて説明している。	
	36	児童発達支援計画を作成するには、こどもや保護者の意見の尊重、こどもの最善の利益を優先考慮の視点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	15		面談の中で保護者の意向を確認したり、日々の支援の中で子どもの様子について詳しく把握し、子どもにとって一番良いことは何かという視点に立って考えるようにしている。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	15		個別支援計画については、子どもの様子について園や家庭の様子を伝え合い、目標設定理由なども丁寧に説明しながら、保護者に同意を得ている。	
	38	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	15		送迎時に保護者と話をしたり、連絡ノートでやりとりしたりするなかで、相談に応じ、必要に応じて面談を行い、こどもについて一緒に考えていく姿勢で支援している。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。またきょうだい等で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	8	5	家族参観日には、クラス懇談会を行い、保護者同士で悩みを共有しながら交流できる機会を作っている。	ニーズに応じて、交流機会を設けていく。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	15		定期面談に加え、必要に応じて面談を実施し、対応している。	児童発達支援センターとしての相談体制の在り方を行政、相談支援員とも協議している。

	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	14		月に1回園のおたよりを発行している。園での様子については、月2回写真をアップしたり、動画をアップしたりして保護者に分かりやすく発信している。活動内容についてはメールにてお知らせしている。	
	42	個人情報の取扱いに十分注意しているか。	14		個人情報取り扱いについては、入園の際に説明し同意を貰っている。	
	43	障がいのあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	14		こどもや保護者の様子に合わせて、意思の疎通がスムーズに図れるように工夫している。個々に合わせた対応をしている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	12	行事に地域の方が参加する機会は少ないが、活動によっては地域の方を講師として取り組んでいる。	お子さまを中心に活動や行事を組み立てている。一方で、児童発達支援センターとしての存在や役割を認識してもらうための地域住民との交流機会は少ないため、今後検討していく。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	14		保育安全計画に盛り込み、周知している。	
	46	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常時発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	13	1	定期的な訓練を行っている。	常にBCPの見直しを図り、非常時にすぐ対応できるよう訓練を実施していく。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	14		入園前に、予防接種やアレルギー、てんかんなどについての確認を行っている。服薬に関しては保護者様に対応していただいている。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	14		食物アレルギーがある児に対しては、医師の記入する生活管理指導票を提出してもらっている。アレルギーのある食物について給食では完全除去の対応をとっている。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	15		保育安全計画を作成し、この計画に基づき訓練、研修を実施している。	
	50	こどもの安全確保に関して、家庭等との連携が図られるよう、安全計画に基づく組織内容について、家族等へ周知しているか」。	14		入園の際に説明し、計画書は掲示して周知している。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた対策について検討をしているか。	14		月に1回リスクマネジメント会議を行い、日々のヒヤリハットを共有している。再発防止に向けた対応策についても検討し、修理などの必要がある場所については管理者に相談し順次対応している。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	14		研修の機会を設け、職員同士で意見を出し合いながら話し合いも行っている。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	12	2	現在身体拘束にあたる支援等はないが、今後事例があった際は、職員の共通理解を図るとともに、保護者にも説明し、計画を策定していく。	